

一年のゴールに向かって、ていねいなまとめを

校長 柳瀬充男

23日（月）夕方から急に雪が降り出しました。低学年の下校時には、傘がほしいくらい激しい雪の降り方でした。夜にかけてまとまった雪がふったので、翌日の朝には校庭で約10センチの積雪となっていました。毎年積雪がある地方と違い、和歌山では久しぶりの雪でしたので、登校した子どもたちは大喜びでさっそく雪だるまを作ったり、雪玉を作って雪合戦を楽しんでいました。



さて、新しい年が始まり、間もなくひと月が過ぎようとしています。市駅伝の大会、始業式、如来山のお祭り、つい昨日のような気がします。そして、2月は28日しかありません。3月は学年の締めくくりの月となりますのでよけいに慌たしくなります。このように新年を迎えての3ヶ月があつという間に過ぎ去っていくような気がするので、昔から、それぞれの数字の読みを取って、1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と呼ばれます。3月24日の修了式に向かって、どんどん月日が過ぎていきますから、やるべき事を手際よく、ていねいに仕上げてください。インフルエンザもそろそろ流行し始めました。学校でも、手洗い・うがいの励行を呼びかけていますが、ご家庭でもぜひ注意をお願いいたします。もし、体調を崩した場合は、十分休養し、体調を戻してから、またがんばって頂けたらと思います。

1月21日（土）、白浜町で開催された和歌山県PTA指導者研修会に6名の役員さんと共に参加してきました。今回の講師さんは、盲目のピアニスト辻井伸行さんのお母様である辻井いつ子さんでした。いつさんは、息子の伸行さんが生まれつき目が見えないとわかったとき、自分でもどうしていいかわからず、深い谷底に突き落とされたようなショックを受けたそうでした。ただ、ブーニンの演奏する「英雄ポロネーズ」（ショパン作曲）を聞き分けて反応する姿をみて、この子の打ち込めるものは音楽ではないかと考え、息子のために「今できること」をとにかくやって来たと言われていました。最初は「この子はこの美しい光景が見えないんだ」と悲観的に考え、お花見にも連れていかなかったのですが、花のにおいに感動したり、周りの音からもその様子を知ることができるとわかり、いろいろなところに連れ出すようになったそうです。後に、伸行さんは、「風に散る花びらが顔に当たるのが何とも心地よいので、桜の散る頃の花見が気に入っている」と言ったそうです。たとえ視力に障害があっても、肌で感じたり、耳で聞いたり、味わったり、香に感動したり、いろいろな感じ方ができるものだと再確認しました。



辻井いつさんはその他にも多くのことを話されましたが、その中で「子どもの可能性を信じる」「思いっきりほめる、抱きしめる」「ネガティブな言葉は使わない」「ひらめいたら即アクション」「本物に触れさせる」などは小学校教育の本質につながるもので、中野上の教育でも大切にしていきたいと考えています。